

### 全国温泉地サミット&チーム新・湯治全国大会 開催！

令和元年10月4日(金)に第4回全国温泉地サミット・第1回チーム新・湯治全国大会を開催しました。参加者数194名(うち、首長等18名。チーム員75団体[125名])と、大変多くの方にご参加いただきました。ご来場いただいた皆様、誠にありがとうございました。今後も一緒に温泉地を盛り上げていきましょう！



サミットでは、チーム員の活動エリアである

- あつみ温泉 (山形県鶴岡市) [新規指定]
- 湯布院温泉郷 (湯布院温泉、湯平温泉、塚原温泉、庄内温泉、挾間温泉) (大分県由布市) [拡充指定]

が国民保養温泉地に指定されるとともに、チーム員であり、温泉地を有する自治体の

- 兵庫県新温泉町
- 大分県竹田市

より事例発表がありました。

#### 国民保養温泉地

**鶴岡市** 出羽三山などの三つの日本遺産とユネスコ食文化創造都市に認定された豊富な食材を活かし、「詣でる、つかる、いただきます。」をテーマにした誘客に力を入れている。

**由布市** 今回の指定を契機とし、訪れる人はもちろん、住んでいる人にも暮らしの豊かさを感じられるような質の高い保養温泉地づくりに全力で取り組んでいきたい。

**新温泉町** 従来の観光旅行商品のあり方を見直し、温泉を使いもっと健康で長生きしようという取組を行なうプロジェクトチームを役場内に編成した。3つの日本遺産を中心に、素晴らしいまちの資産を活かして温泉活用、ナンバーワン。そのような「おんせん天国」を推進できるまちにしていきたい。

#### 事例発表

**竹田市** 私たちが目指すのは、本当の意味での温泉、地域資源を活用した国民の健康づくりであり、どのようにそれを普及できるか。日本は、国家戦略として国民保養温泉地が国民のための健康づくり、予防医療に寄与するという狙っていくべきである。施設と人材育成を上手くマッチングさせると、小さくても世界に通用する個性的な温泉地づくりができるはずだ。



また、初めての開催となる全国大会では、発足から一年間ほど活動してきた「チーム新・湯治」の活動状況を報告しつつ、チーム員から温泉地に関する取組と「チーム新・湯治に求めるもの」についてコメントをいただき、その後、意見交換を行いました。

- 一般社団法人 ONSEN・ガストロミーツリズム推進機構
- 一般社団法人日本テレワーク協会
- 温泉総選挙事務局
- 株式会社ツーリストサポート (温泉百貨店)
- ONSEN WAKIPEDIA/ 鉄輪湯治シェアハウス「湯治ぐらし」/湯治女子
- 株式会社バスクリン
- 一般社団法人日本健康開発財団 温泉科学研究所 所長 早坂信哉氏

#### 「チーム新・湯治」に求めるもの等

- ・チーム員内の情報交換からPRにフェーズを今後活動は移っていくだろう。個別に発信してもなかなか力が出てこないの、まとめて「新・湯治」という看板で行なえば、さらに発信力が強まるのではないだろうか。
- ・まちには多くの課題あると思われるので、それらをオープンソース化して、それを官民が連携できるようなシステムの構築をしていただければよいだろう。
- ・チーム員全員がそれぞれ持つ強みや弱みも含め情報開示を行い、相互につながりサポートし合えるような有機的なプラットフォーム化を望んでいる。湯治という日本が誇れる文化そのものの認知や理解などを、日本人・海外の人も含めて深めていかなければならない。
- ・予算がついている間だけの瞬間的な活動ではなく、持続可能なチーム活動をしていくことが重要である。
- ・緩やかなネットワークでいろいろなものが掛け合わせり混ざり合うことで、新しいシナジー効果が生まれ、社会問題の解決にもつながると思われる。
- ・科学的に温泉の効果を示していくということがこれからの温泉地が生き残っていく道だろう。海外に向けても、世界中から人を集めていく際の強みになるのではないかと考えている。



## 第5回「チーム新・湯治」セミナー

# 温泉地に求められるトータルデザインカ

～周辺の自然、歴史・文化、食等を活かす拠点としての温泉地～

温泉地で新たな取組みに挑む地域関係者から、地域の関係者の巻き込み方、今後の展望などを伺い、温泉地の総合力向上について一緒に考えました。



意見交換会の様子

## 世界の期待に応え得る温泉地の総合力の向上を目指して

竹内秀次郎氏 山中温泉かよう亭

温泉地の魅力をつくっているのは、有機野菜やお米、醤油の生産者、器を作る職人などのものづくりの方々である。旅館を超えて地元の彼らとゲストを結び「コンシェルジュ機能」を旅館が持つと、もっと活性化して地域の良いものを海外に紹介できるようになる。かよう亭では、Artisans for the future(職人未来塾プロフェッショナルおもてなしチーム)のメンバーと連携し、ゲストがものづくりの現場を体験するプログラムを開発してきた。ゲストと彼らが相互に利益を享受し、結果として旅館もwin-winになり続けられる、そうした仕組みの構築に力を注いできた。田舎の温泉地には、適度な運動ができる環境、オーガニックな食事、真っ暗な中でぐっすり眠れる環境、そして何より純生の温泉がある。人間の原点に戻って五感で感じる体験に対価を払っていただける方にお越しいただきたい。日本の温泉の使い方、温泉地に興味を持たれるのは、日本人に限らない。旅館や温泉地では、迎える側でチームをつくりチームとしてお迎えする。心に残るサービスや経験を提供し、温泉地ならではの新しい価値を創り伝えていく。そうした「自ら変化を作り出していくこと」が大切である。



## 温泉と地元産業との連携でつくる新たな価値 ～『嬉野茶時』プロジェクトの目指すもの

北川健太氏 / 小原嘉元氏 嬉野茶時

【北川氏】『嬉野茶時』のコンセプトは「一杯のお茶を求めて旅が計画される、その旅先は嬉野」。嬉野の地に代々伝わる嬉野温泉、嬉野茶、肥前吉田焼、それぞれに数百年の歴史がある。『嬉野茶時』では、それらを自在に組み合わせて四季折々に表現している。旅館と同じく、お茶を空間と時間と人で売っている。これからは温泉が旅のきっかけの一つで良いと思う。魅力的な嬉野茶を飲みに行こう、せっかくだから温泉旅館に泊まろうという順番でも良い。歴史が続いていくということは常に変化していくことである。既存の土地の資産、産業を新しい切り口で再編集し、新しい価値を創造し、土地に住む者が自分たちで実施する。これが温泉地に求められるトータルデザインだと思う。嬉野の伝統文化を継承していくためには、地元の次世代や他の旅館、茶農家などの横のつながりを広げていく必要がある。『嬉野茶時』の成果を今後は『ティーツーリズム』という形で広げ、嬉野の魅力がより伝わるようになると良い。

【小原氏】東京にある5つ星ホテルのラウンジと京都にあるお茶サロンが出しているお茶を足して二で割ったことを嬉野の地で実施しようと、小さな成功体験を自分たちで積み上げてきた。成功の素地は、地元民が進めたこと、そして、三つの文化が誇り高く美しいものだとい早い段階で気付けたことにある。嬉野茶は全国の日本茶の生産量の2%しかない。このお茶に価値をつけてマネタイズし、50年後もお茶農家がこの土地で暮らせるよう真剣に考えないといけない。1300年の歴史ある温泉と土地の魅力と掛け合わせることで嬉野茶の価値が上がり、温泉地も磁器やお茶があることにより他にない新しい滞在型温泉地づくりができる。50年、100年という時間に耐えうるころまで集中して進め、この土地の魅力を次の世代に繋げていくことが我々の宿命だと思っている。

\*チーム新・湯治全国大会、第5回セミナーの資料は、環境省HPの「チーム新・湯治」WEBページで公開しています [https://www.env.go.jp/nature/onsen/spa/spa\\_team.html](https://www.env.go.jp/nature/onsen/spa/spa_team.html)

## チーム員との活動報告 ～新・湯治セミナー

### 「温泉を活用した地域の健康づくりへの挑戦」in 三朝町

環境省温泉地保護利用推進室では、チーム員であるNPO法人健康と温泉フォーラムとの共催で、令和元年10月23日に新・湯治セミナー「温泉を活用した地域の健康づくりへの挑戦」を鳥取県三朝町で開催しました。



### 首藤勝次氏

大分県竹田市長



「未来を語るものは世界を見ておかなければならない」との言葉を胸に秘め、地域遺伝子に導かれてドイツを目指した。ドイツの温泉地は、目標やビジョンを示してくれた。30年が経ち、今一つの目標、ビジョンを達成しようとしている。温泉療養保健システムの創設、国民保養温泉地の拡大指定、温泉エビデンス調査の実施、温泉利用型健康増進施設（連携型）の認定、クアパーク長湯の開設など模索しながら進めてきた。今後は市民を対象とした温泉の活用による健康づくりに取り組んでいきたい。

### 荒川光昭氏

山形県大蔵村診療所長・温泉療法医



平成3年より始めた肘折温泉療養相談所では、来湯者に症状や滞在期間について伺った上で、温泉地での過ごし方や入浴方法などの説明を行ってきた。これまでに5000人の相談を行なった。地域に対しても、温泉に関する講話や温泉療養体験教室を開催し、高齢者が外出し、人々との交流や温泉に接する機会を作ってきた。一方、温泉療法医にできることにも限界がある。今後は、保健師、栄養士、健康運動指導士などと連携するチームで、大蔵村の保健介護予防活動を続けていきたい。

### 新藤祐一氏

特定非営利法人NPOみささ温泉理事長



NPOみささ温泉は平成18年に有志が集まって自由に活動ができる組織として設立。たまわりの湯（外湯）と熱気浴施設（岡山大学病院三朝医療センター分室）を運営している。三朝温泉は地元の方も外湯に来ることが特徴。そこで交流が生まれている。三朝温泉は、三徳山、鉦泥湿布、ラドン熱気浴の3本が特徴であり、鳥取中部地震後に、熱気浴施設を三朝町が取得。現在、乾式吸引室を復元中であり、皆さんに喜んでもらえる施設としたい。

コーディネーターである坂本誠氏（健康と温泉フォーラム専門委員）からは、いずれの地域も温泉を介した「交流」が生まれており、温泉には人々の交流、地域のつながりを創出する場としての役割もあるとのコメントがありました。

「チーム 新・湯治」運営事務局【環境省温泉地保護利用推進室】

平成31年度運営業務請負事業者：公益財団法人日本交通公社 チーム新・湯治係（後藤・安谷・有田・岩崎）

TEL:03-5770-8440 FAX:03-5770-8359

E-mail:shintotoji@jtb.or.jp